

平成 30 年度 事業報告書

(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日まで)

I 事業の概要

平成 3 年 9 月 18 日に設立された当財団は、平成 25 年 4 月 1 日には内閣府より認可を得て公益財団法人への移行登記を行い、公益目的事業の推進に力を注ぎ実施してきた。

公益目的事業の「1」として、前年度に引き続き、糖尿病に関する調査研究等に対する助成事業の推進を図るとともに、糖尿病に関する予防キャンペーンによる正しい知識の普及啓発活動の実施および助成を行った。

公益目的事業の「2」として、厚生労働省が推進する「糖尿病予防のための戦略研究」のうち課題 3 (J-DOIT3) を継承し、「2 型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験介入後の追跡研究」を実施してきた。

II 事業の内容

公益目的事業 1

1. 研究助成 (下記助成についてはホームページにも掲載している)

(1) 糖尿病に関する調査研究に対する助成

糖尿病合併症の種類・治療状況などの実態調査・研究、遺伝子異常による発症機構の研究、動物実験での発病メカニズムの解明を目的とする研究など、糖尿病に関する幅広く制約を設けない研究の公募を行った。応募は全国から 27 件あり、研究の計画性、予防・治療への応用性、治療薬の開発等の面から、選考委員会における応募課題の 5 段階評価を踏まえた慎重な審査結果を経て、5 名に対し総額 500 万円の助成を実施した。

助成対象者は別添 1 のとおり。

(2) 日本ベーリンガーインゲルハイム(株)・日本イーライリリー(株)との共同企画による研究助成

「糖尿病病態下における臓器連関に関する基礎研究」または「糖尿病病態下における老年症候群に関する基礎研究」について、45 歳以下の国内在住研究者に限定した募集を行った。応募は全国から 29 件あり、研究の計画性、予防・治療への応用性、治療薬の開発等の面から、選考委員会における応募課題の 5 段階評価を踏まえた慎重な審査結果を経て、3 名に対し総額 900 万円の助成を実施した。助成対象者は別添 2 のとおり。

(3) コストコホールセールジャパン(株)との共同企画による研究助成

「小児又は若年発症糖尿病 (いずれも病型は問わない) に関する基礎的または臨床的研究」について、年齢制限は設けず国内在住研究者に限定した募集を行った。応募は全国から 14 件あり、研究の計画性、予防、治療への応用性、治療薬の開

発等の面から、選考委員会における応募課題の5段階評価を踏まえた慎重な審査結果を経て、5名に対し総額450万円の助成を実施した。
助成対象者は別添3のとおり。

- (4) 学術研究集会ならびに総合調査研究に対する助成
糖尿病に関する学術研究集会ならびに糖尿病の基礎的および臨床的問題に関する調査研究について応募があったものの中から、選考委員会における慎重な内容審査の結果を経て助成を実施した。
助成先は別添4のとおり。

※研究助成における選考委員会の構成は以下のとおり。

委員長	春日 雅人	朝日生命成人病研究所	所長
委員	石橋 俊	自治医科大学	内分泌代謝科 教授
〃	宇都宮一典	東京慈恵会医科大学	糖尿病・代謝・内分泌内科 教授
〃	柏木 厚典	社会医療法人誠光会	草津総合病院 理事長
〃	河盛 隆造	順天堂大学医学部	特任教授
〃	寺内 康夫	横浜市立大学大学院	分子内分泌・糖尿病内科学 教授
〃	山田祐一郎	秋田大学大学院	内分泌・代謝・老年内科学 教授

2. 糖尿病に関する予防・教育啓発活動の実施および助成

- (1) 糖尿病予防キャンペーン講演会を西日本地区として鳥取県米子市において、鳥取県糖尿病協会との共催により下記のとおり開催した。来場者は約300名であった。

主 催：日本糖尿病財団・鳥取県糖尿病協会
世 話 人：池田 匡（鳥取県糖尿病協会会長）
日 時：平成30年11月4日（日）13:00～16:30
会 場：米子コンベンションセンター「国際会議室」
テ ー マ：きちんと食べて、しっかり運動、今日から始める健康習慣
開 会 挨拶：池田 匡
主催者挨拶：岩本 安彦（日本糖尿病財団理事長）
講 演 1：「知っておきたい、糖尿病予防に必要な基礎知識」
（座長）越智 寛（越智内科医院医院長）
（講師）檜崎 晃史（鳥取県立中央病院糖尿病・内分泌・代謝内科部長）
講 演 2：「メディアに惑わされない、まじめな食生活のススメ」
（座長）坂本 恵理（垣田病院内科医師）
（講師）高橋 久仁子（食品の広告問題研究会主宰）
講 演 3：「知って得する、食事療法のススメ」
（座長）宮本 美香（山陰労災病院糖尿病内科部長）
（講師）田邊 美加代（住吉内科眼科クリニック）

講演 4：「知って得する、運動療法のススメ」
（座長）村上 功（村上内科クリニック院長）
（講師）松井 浩（ヒューマンモア代表取締役）
閉会挨拶：谷口 晋一（鳥取大学医学部地域医療学講座教授）

(2) 糖尿病予防キャンペーン講演会を東日本地区として東京都において、東京都糖尿病協会との共催により下記のとおり開催した。来場者は約 450 名であった。

主催：東京都糖尿病協会・日本糖尿病財団
世話人：吉田 洋子（朝日生命成人病研究所附属医院診療部長）
日時：平成 30 年 11 月 10 日（土）13：00～17：00
会場：よみうりホール（有楽町駅前ビックビル 7F）
テーマ：糖尿病合併症を予防するには？
主催者挨拶：渥美 義仁（東京都糖尿病協会会長）
岩本 安彦（日本糖尿病財団理事長）
基調講演Ⅰ：「糖尿病は万病の元！—糖尿病が引き起こすさまざまな合併症—」
（座長）宇都宮 一典（東京慈恵会医科大学糖尿病代謝内分泌内科教授）
（講師）馬場園 哲也（東京女子医科大学糖尿病センター内科学教授）
基調講演Ⅱ：「糖尿病合併症の発症・重症化を予防するには」
（座長）柴 輝男（東邦大学医療センター大橋病院糖尿病代謝内科教授）
（講師）寺内 康夫（横浜市立大学内分泌糖尿病内科教授）

パネルディスカッション

（司会）吉田 洋子

- 1) 「高齢者の糖尿病、こんなところに気をつけて」
鈴木 亮（東京医科大学病院糖尿病・代謝・内分泌内科准教授）
- 2) 「なぜレジスタンス運動か、その実践ポイントは」
天川 淑宏（東京医科大学八王子医療センター糖尿病内分泌代謝内科理学療法士）
- 3) 「食物繊維でうんきアップ—今日からはじめる腸活—」
高橋 徳江（順天堂大学医学部附属浦安病院栄養科課長補佐）
- 4) 総合討論（上記 3 名のパネリスト）

閉会挨拶：吉田 洋子

公益目的事業 2

「2 型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験介入後の追跡研究」の実施

本事業は、厚生労働省が政策的な糖尿病対策として推進した「糖尿病予防のための戦略研究」の 3 課題のうち、平成 18 年 6 月より被験者登録を開始した「2 型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試

験 (J-DOIT3)」を継承する事業である。

本研究では、血糖・血圧・脂質に対してより厳格な目標を設定した治療を行い、従来のガイドラインに沿った治療と比較して、大血管障害の進展を30%抑制できるかを検討する。これにより糖尿病の重篤な合併症抑制のための有効な介入方法を検証することができ、生命予後に直結し、高額な医療費を必要とする大血管合併症の予防につながることで期待される。

本研究は全国81医療施設と2,542例の被験者登録により、平均8.5年間という長期にわたる試験治療が進められ、介入研究自体は平成28年3月末で一旦終了したが、これまでの糖尿病に対する臨床研究にも比肩する期間となった。

本研究において、主要評価項目（心筋梗塞・冠動脈血行再建術・脳卒中・脳血管血行再建術・死亡）は統計学的に有意ではなかったものの19%抑制し、登録時の喫煙情報などの危険因子で補正すると24%有意に抑制する結果となり、筆頭副次評価項目（心筋梗塞・脳卒中・死亡）も有意ではないながら26%抑制された。さらに事後解析においては、脳血管イベント（脳卒中・脳血管血行再建術）を58%有意に抑制しており、副次評価項目のうち、腎イベント（腎症の発症・進展）は32%、眼イベント（網膜症の発症・進展）についても14%の有意な抑制がみられた。この研究結果は、今後の国内外の糖尿病診療ガイドラインの治療の目標値について、より厳格な方向で見直しが進む可能性がある。

また、この解析結果は平成29年9月に欧州糖尿病学会（EASD2017）にて発表するとともに、国内では協力施設の関係者向けに報告会を実施し、英国科学雑誌（Lancet Diabetes & Endocrinology）への掲載も行っている。

一方、これまでの糖尿病の合併症抑制の介入研究における強化療法の有効性は、介入終了後の追跡期において初めて明らかとなったり、より大きな差が認められるようになる例が多く認められたことから、治療効果をより長期的に観察するため、介入終了後の追跡研究を平成28年4月より5年間の予定で開始することを決定した。追跡研究では75医療施設で、介入研究中の死亡・脱落などを除く同意の得られた1,731例の継続参加のもと、1年ごとに調査を実施している。

具体的には、血糖値・血圧・脂質・体重や服薬状況に加え、治療内容や主要評価項目（死亡・心筋梗塞・脳卒中・血行再建術）、副次評価項目（全死亡、死亡・心筋梗塞・脳卒中、腎症、網膜症、下肢血管イベント）の有無について調査を継続実施している。介入研究は大血管症の予防に主眼を置いていたが、追跡研究では生命予後にも重点を置いて全死亡を新たに副次評価項目に加え、糖尿病やその治療薬と関連の深い重症低血糖、心不全による入院、悪性新生物、骨折、認知機能、QOLについても探索的評価項目として情報の収集を行っている。

介入研究の解析結果とともに、厳格かつ統合的な治療の合併症に対する長期的な効果も明らかになると期待されており、糖尿病診療の現場に与える影響も大きい。

研究全体は研究代表者が統括し、当財団理事長は研究分担者の一人としてこれを補佐するとともに、当財団は研究基盤整備やモニタリング等のサポートを実施する体制となっている。

平成30年度日本糖尿病財団研究助成金交付対象者リスト

(各100万円)

氏名	所属	研究課題
泉 哲郎	群馬大学生体調節研究所 遺伝生化学分野 教授	異種細胞間で機能する、新たな脂肪蓄積機構の解明と肥満治療への応用
菅波 孝祥	名古屋大学環境医学研究所 分子代謝医学分野 教授	スマートゲルを用いた人工膵臓デバイスによる新規糖尿病治療戦略の開発
西村 渉	国際医療福祉大学 医学部 分子生物学 教授	膵β細胞障害を反映するバイオマーカーの同定
原田 範雄	京都大学大学院 医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学 講師	肥満ならびにインスリン抵抗性の改善を目的とした消化管ホルモン分泌制御と機序の解明
姫野 龍仁	愛知医科大学 医学部 内科学講座(糖尿病内科) 講師	糖尿病性多発神経障害におけるinsulin-Notch連関を介した再生機構の意義

第5回(平成30年度)ベーリンガー／リリー糖尿病研究助成金交付対象者リスト

(各300万円)

氏名	所属	研究課題
土屋 恭一郎	山梨大学大学院 総合研究部 医学域 内科学講座 第三教室 講師	肝プロスタシンを起点とした個体レベルにおける糖・脂質代謝の制御機構の解明と医学応用
長谷川 豊	岩手医科大学 糖尿病代謝内分泌内科分野 特任講師	糖尿病病態下における褐色脂肪組織と臓器連関
山本 淳平	東北大学病院 糖尿病代謝科 助教	糖尿病病態下における神経を介した肝—膵臓器連関システムの時空間的解明

五十音順

平成30年度コストコ研究助成金交付対象者リスト

(各90万円)

氏名	所属	研究課題
片上 直人	大阪大学大学院 代謝血管学寄附講座 講師	1型糖尿病における動脈硬化の進展要因の解明と効果的な予防・介入アプローチの開発
佐藤 叔史	熊本大学大学院 生命科学研究部 病態生化学分野 助教	新規HNF標的遺伝子Anks4bによる若年性糖尿病MODY発症機構の解明
白川 純	横浜市立大学大学院 医学研究科 分子内分泌・糖尿病 内科学 助教	若年発症家族性糖尿病の新規原因遺伝子の全エクソームシーケンスによる同定と機能析
松浦 信夫	市立美唄病院 小児科 嘱託医 北海道大学大学院 客員研究員	15歳未満発症1型糖尿病小児の長期予後に関する研究-特に、北海道におけるpopulation-based疫学研究-
宮塚 健	順天堂大学大学院 医学研究科 代謝内分泌内科 准教授	糖尿病再生医療の実現に向けた β 細胞新生経路の解明

平成30年度学術研究集会・総合研究助成先一覧

	学会・研究会名	内 容
1	第30回分子糖尿病学シンポジウム	分子生物学的研究手法を用いた糖尿病に関する研究成果のシンポジウム
2	第34回日本糖尿病・妊娠学会 年次学術集会	日本糖尿病・妊娠学会の年次学術集会
3	大阪糖尿病アカデミー	地域における糖尿病患者のQOL改善に貢献することを目的として活動している学術集会
4	第10回日本成人病(生活習慣病)学会 教育集会	成人病学会の学会活動の一環として成人病学・生活習慣病学の教育啓発を行う テーマの1つとして肥満糖尿病患者の治療・管理
5	小児インスリン治療研究会	小児糖尿病のインスリン治療に関するプロジェクト研究、コホート研究の推進および合併症の追跡調査
6	J-DOIT2研究会	受診中断の抑制のための方法の確立をめざす「糖尿病予防のための戦略研究J-DOIT2」の後続研究